

病院ノ經費ニ對シ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助ス  
 第四條 第一條ノ規定ニヨリ設置スル精神病院ノ長ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ入院者ニ對シ監護上ノ必要ナル處置ヲ行フコトヲ得  
 第五條 地方長官ハ入院者ヨリ入院費ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得地方長官入院者ヨリ徵收スルコトヲ得ズト認ムルトキハ其ノ扶養義務者ヨリ之ヲ徵收スルコトヲ得  
 前項費用ノ徵收方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
 第六條 道府縣ニ於テ設置スル精神病院ニシテ地方長官ノ具申ニ依リ主務大臣ニ於テ適當ト認ムルモノハ第一條ノ規定ニ依リ設置スルモノト看做ス  
 第七條 主務大臣必要ト認ムルトキハ期間ヲ指定シ適當ト認ムル公私立精神病院ヲ其ノ承諾ヲ得テ第一條ノ規定ニ依リ設置スル精神病院ニ代用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第二條乃至第五條ノ規定ヲ準用ス  
 第八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ執行ニ關シ行政官廳ノ處分ニ不服アル者ハ訴訟スルコトヲ得行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタルトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ各條ニ付之ヲ定ム

●法律第二十六號

結核豫防法

第一條 本法ニ於テ結核ト稱スルハ肺結核又ハ喉頭結核ニシテ病毒傳播ノ危険アルモノヲ謂フ  
 第二條 醫師結核患者ヲ診斷シ又ハ其ノ死體ヲ檢査シタルトキハ患者ノ場合ニ在リテハ患者又ハ其ノ居住ノ場所ノ管理ヲ爲ス者若ハ其ノ代理

ヲ爲ス者、死體ノ場合ニ在リテハ死體所在ノ場所ノ管理ヲ爲ス者又ハ其ノ代理ヲ爲ス者ニ命令ノ定ムル所ニ依リ消毒其ノ他ノ豫防法ヲ指示スベシ  
 前項ノ規定ニ依リ指示ヲ受ケタル者ハ其ノ指示ニ從ヒ消毒其ノ他ノ豫防法ヲ行フベシ  
 第三條 行政官廳ハ結核患者又ハ其ノ死者アリタル場所ニ付家屋物件ノ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ施行シ又ハ其施行ヲ患者又ハ場所ノ管理ヲ爲ス者若ハ其ノ代理ヲ爲ス者ニ命ズルコトヲ得  
 第四條 行政官廳ハ結核豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ行フコトヲ得  
 一、業態上病毒傳播ノ虞アル職業ニ従事スル者又ハ病毒蔓延ノ虞アル場所ニ居住シ若ハ其ノ場所ニ於テ職業ニ従事スル者ニ對シ健康診斷ヲ施行スルコト  
 二、結核患者ニ對シ業態上病毒傳播ノ虞アル職業ニ従事スルヲ禁止スルコト  
 三、學校、病院、製造所其ノ他ノ多衆ノ集合スル場所又ハ旅店、料理店、理髮店其ノ他ノ客ノ來集ヲ目的トスル場所ニ付病毒傳播ノ媒介トナルベキ事項ヲ制限シ若ハ禁止シ又ハ場所ノ管理ヲ爲ス者若ハ其ノ代理ヲ爲ス者ニ對シ結核豫防上必要ナル施設ヲ爲サシムルコト  
 四、古着、古蒲團、古本、紙屑、襪、飲食物其ノ他ノ物件ニシテ病毒ノ汚染シ又ハ其ノ疑アルモノノ賣買若ハ授受ヲ制限シ若ハ禁止シ、其ノ物件ノ消毒若ハ廢棄ヲ爲サシメ又ハ其ノ物件ノ廢棄ヲ爲スコト  
 地方長官ニ於テ前項ノ規定ニ依リ健康診斷ヲ施行シ又ハ物件ノ廢棄ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス  
 第五條 地方長官ハ結核豫防上必要ト認ムルトキハ採光、換氣其ノ他ノ

關係ニ於テ衛生上不良ナル建物ノ使用ヲ制限シ又ハ禁止スルコトヲ得  
 前項ノ規定ニ依リ制限又ハ禁止ニ因リ生ジタル損害ニ對シテハ地方長官必要ト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ補償金ヲ交付ス補償金ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス  
 第六條 主務大臣ハ結核患者ニシテ療養ノ途ナキモノヲ收容セシムル爲人口五萬以上ノ市又ハ特ニ必要ト認ムル其ノ他ノ公共團體ニ對シテ結核療養所ノ設置ヲ命ズルコトヲ得  
 第七條 地方長官ハ結核患者ニシテ療養ノ途ナキモノ及豫防上特ニ必要ト認ムルモノヲ前條ノ規定ニ依リ設置スル結核療養所ニ入所セシムルコトヲ得  
 前項ノ規定ニ依リ入所ノ費用ノ負擔及徵收ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ第六條ノ規定ニ依リ結核療養所ヲ設置スル公共團體ニ對シ其ノ結核療養所ニ關シ公共團體ノ支出スル經費ノ六分ノ一乃至二分ノ一ヲ補助ス  
 第九條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ第六條ノ規定ニ依ラズシテ結核療養所ヲ設置スル公共團體又ハ公益法人ニ對シ其ノ結核療養所ニ關シ公共團體又ハ公益法人ノ支出スル經費ノ二分ノ一以內ヲ補助スルコトヲ得  
 第十條 結核療養所ヲ設置スル公共團體ニシテ第八條又ハ前條ニ依リ補助ヲ受ケルモノハ他ノ公共團體ノ委託アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ療養ノ途ナキ結核患者ヲ其ノ結核療養所ニ收容スベシ

第十一條 北海道地方費又ハ府縣ハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ第四條第一項第二號ノ規定ニ依リ從業禁止又ハ第七條第一項ノ規定ニ依リ入所ニ因リ生活スルコト能ハザル者ニ對シ其ノ生活費ヲ補助スベシ  
 第十二條 國庫ハ第四條第二項、第五條第二項又ハ前條ノ規定ニ依リ支

出ヲ爲ス北海道地方費又ハ府縣ニ對シ其ノ支出額ノ四分ノ一ヲ補助ス  
 第十三條 官立廳、公署、官公立ノ學校病院製造所等ニ於テハ其長ハ第四條第一項第三號第四號及第五條第一項ノ規定ニ準シ結核豫防ニ關スル事項ヲ施行スベシ  
 第十四條 第二條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第三條ノ規定ニ依リ行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス  
 第十五條 第四條第一項又ハ第五條第一項ノ規定ニ依リ行政官廳ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
 大正三年法律第十六號ハ之ヲ廢止ス  
 大正三年法律第十六號ニ依リ設置ヲ命ジタル肺結核療養所ハ本法ニ依リ設置ヲ命ジタル結核療養所ト看做ス

●法律第二十七號

「トラホーム」豫防法

第一條 醫師「トラホーム」患者ヲ診斷シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ患者又ハ其ノ保護者ニ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ指示スベシ  
 當該官吏又ハ吏員ハ必要ト認ムルトキハ「トラホーム」患者又ハ其ノ保護者ニ消毒其ノ他ノ豫防方法ヲ指示スベシ  
 第二條 「トラホーム」患者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クベシ  
 「トラホーム」患者ノ保護者ハ其ノ患者ヲシテ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケシムベシ



第三條 行政官廳ハ「トラホーム」患者ニシテ治療ヲ受クルノ途ナキ者ニ對シ治療ヲ施行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ治療ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ費用ハ患者所在地ノ市町村ノ負擔トス

第四條 行政官廳ハ「トラホーム」豫防上必要ト認ムルトキハ左ノ事項ヲ行フコトヲ得

- 一、 檢診ヲ施行スルコト
- 二、 「トラホーム」患者ニ對シ客ニ接スル業務ニ從事スルヲ停止スルコト
- 三、 學校、幼稚園、製造所其ノ他ノ多衆ノ集合スル場所又ハ旅店、料理店、理髮店其ノ他ノ客ノ來集ヲ目的トスル場所ニ付病毒傳播ノ媒介トナルベキ事項ヲ制限シ若ハ禁止シ又ハ場所ノ管理ヲ爲ス者若ハ其ノ代理ヲ爲ス者ニ對シ「トラホーム」豫防上必要ナル施設ヲ爲サシムルコト

地方長官ニ於テ前項第一號ノ檢診ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ費用ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第五條 市町村ハ地方長官ノ指示ニ從ヒ「トラホーム」ノ豫防及治療ニ關スル施設ヲ爲スベシ

第六條 北海道地方費又ハ府縣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ「トラホーム」ノ豫防及治療ノ爲費用ノ支出ヲ爲ス市町村ニ對シ其ノ費用ノ補助ヲ爲スベシ

第七條 國庫ハ前條ノ補助ノ爲其ノ他「トラホーム」ノ豫防及治療ノ爲費用ノ支出ヲ爲ス北海道地方費又ハ府縣ニ對シ其ノ支出額ノ六分ノ一ヲ補助ス

第八條 官廳、公署、官立公立ノ學校製造所等ニ於テハ其ノ長ハ第四條第一項第三號ノ規定ニ準シ「トラホーム」豫防ニ關スル事項ヲ施行スベシ

第九條 第一條第一項又ハ第三項ノ規定ニ違反シタルモノハ科料ニ處ス

第十條 第四條第一項ノ規定ニ依リ行政官廳ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十一條 本法ニ於テ保護者ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

- 一、 未成年者ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ未成年者若ハ禁治産者ノ後見人親權ヲ行フ者又ハ後見人ナキトキハ戶主、戶主未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ戶主ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ戶主ノ後見人
- 二、 教育、監護又ハ備使ノ目的ヲ以テ未成年者ヲ寄寓セシムル者又ハ其ノ法定代理人

第十二條 本法中市町村アルハ市制町村制ヲ施行セル地ニ於テハ之ニ準スベキモノトス

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

### ○醫師法中の改正

醫師法中の改正は、四月十日法律第五十七號を以て公布せられ、愈醫師會の強制設立、醫師の醫師會への強制加入を規定せられたるが、其法律全文左の如し。

●法律第五十七號

醫師法中左の通改正す

第一條中「帝國大學醫科大學醫學科」ヲ「大學令ニ依リ大學ニ於テ醫學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者」ニ改ム

第二條中第一號ヲ左ノ如ク改メ第二號ヲ削リ第三號ヲ第二號トス

一、 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

第三條中「禁錮」ヲ「六年未滿ノ懲役又ハ禁錮」ニ改ム

第八條 醫師ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ郡市區醫師會ヲ設立スベシ

郡市區醫師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ道府縣醫師會ヲ設立スベシ

郡市區醫師會及道府縣醫師會ハ法人トス勅令ノ定ムル所ニ依リ醫事衛生ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第九條 郡市區醫師會ハ命令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外郡市又ハ北海道若ハ沖繩縣ノ區チ區域トス

公私立ノ診療所若ハ治療所又ハ其ノ出張所ニ於テ診察又ハ治療ニ從事スル醫師ハ其ノ診療所、治療所又ハ出張所ノ所在地チ區域トスル郡市區醫師會ノ會員トス

第九條ノ二 道府縣醫師會ハ道府縣チ區域トス

道府縣内ニ在ル郡市區醫師會ハ其道府縣チ區域トスル道府縣醫師會ノ會員トス

第九條ノ三 郡市區醫師會又ハ道府縣醫師會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會員ヨリ徵收スベキ收入ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第九條ノ四 前四條ニ規定スルモノノ外郡市區醫師會及道府縣醫師會ノ設立ノ手續、機關ノ組織、經費ノ負擔、監督、會員ノ懲戒其ノ他必要ナル事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條中「第二條第一號又ハ第三號」ヲ「第二條各號ノ一」ニ「禁錮」ヲ「六年未滿ノ懲役又ハ禁錮」ニ「第二條第三號」ヲ「第二條第二號」ニ改ム

第十一條中「五百圓以下ノ罰金」ヲ「五百圓以下ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料」ニ改ム

本法ノ適用ニ付テハ帝國大學醫科大學醫學科ヲ卒業シタル者ハ大學令ニ依リ大學ニ於テ醫學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者ト看做ス

本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ、同法ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者ト看做ス

本法施行ノ際現ニ在スル醫師會ハ本法施行ノ日ヨリ六月内仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

### ○大日本私立衛生會總會

同會第卅七次定期總會は、五月廿四日(土曜日)午後一時より、麴町區大手町なる同會々堂に於て左記の順序により開催せられたり。

一、開會の辭

一、役員改選報告

一、前年中本會成績及會計報道

一、前年中内國衛生上の報道

一、内務大臣祝辭

一、講演

會頭醫學博士 北里柴三郎

評議員兼理事 遠山椿吉

醫學博士 評議員 栗本庸勝

陸軍中將 長岡外史

内務書記官 田子一民

法學博士 窪田靜太郎

### ○結核豫防協會の事業

一、閉會の辭